

第2回四国中央市国際交流ビジョン委員会 議事録

日 時 : 平成25年9月19日(木) 19:10~20:50

場 所 : 四国中央市福祉会館3階 会議室1

出 席 者 : 和田寿博、加地令子、石川雄一、渡辺雅道、篠原裕二、篠原祥子、秦賜佳
ショーン・モンゴメリー、スシダバンチ知子(順不同)

事 務 局 : 四国中央市4名

配 布 資 料 : 第1回四国中央市国際交流ビジョン委員会 議事録

議事録

進行: 委員長

事務局から第1回国際交流ビジョン委員会会議録の要点を説明し、出席者で確認を行った。

委員長: 今日、前回に続き意見をもらいながら、提言書を出すか出さないかの議論もお願いしたい。
また、今後のスケジュールを事務局より示してほしい。

事務局: 今後のスケジュールは、10月に第3回国際交流ビジョンを開催し、素案として完成させてほしい。
その後、タウンコメントを11月~12月に予定している。1月初旬には、市に提出願いたい。

委員長: 今日欠席した委員から意見をいただいているので披露する。「技能実習生雇用組合では、防災の緊急カードについて、企業により配布しているところとそうでないところがあるため、全市統一したカードがあればよいと思う。また、防災訓練は何度でも行っていただきたい。」

委員長: 8、9月で出席者のみなさんが参加した行事を披露していただきたい。たとえば花火大会。

事務局: 川之江地域は7月15日と三島地域は7月25日、土居地域が8月15日、嶺南地域は8月にあった。

委員長: では、各地域の花火大会は外国人も参加したのか。

委 員: 外国語指導助手(以下ALTという)はみんな一緒に参加した。

委 員: 花火大会はポスターが多く貼ってあり、日本語を読めなくても絵で外国人も内容がわかる。

委 員: 盆おどりもあった。

事務局: 三島地域は、7月23日が市内企業や市民参加、24日が純信連、よさこい連など駅前を中心に踊る。
川之江地域は、今年は8月28日に紙おどりがあった。旧の川之江地域の市職員や企業人が踊る。
土居地域は8月15日にあったがアットホームであった。国際交流員は参加したがALTはわからない。

委 員: ALTは、川之江地域の盆おどりに参加したと思う。

事務局: 誰でも入れる勝手連のようなものがあれば参加しやすいのではと思う。企業や団体等組織に属していないと参加しにくい。

委 員: 8月から3つの行事に参加した。まず、病院関連の盆おどりで組合を通じて技能実習生と一緒に参加した技能実習生はとても喜んだ。

委員長: 技能実習生も盆おどりを踊るのか。

委 員: わからなくてもついていく。中国語でニイハオと書いてあるにTシャツで踊った。病院から組合に声をかけてくれたので参加できる人はみんな行った。それから、住んでいるところの盆おどりにも参加した。一軒一軒聞きに来てくれたので今年は主人と2人で参加してとてもよかった。それから、9月に川之江の隣保館で技能実習生5~6人と一緒に外国人の人権の会に参加した。外国人が企業に入ってミスをしたとき、外国人なので特に怒られることはないか聞かれた。技能実習生は特に言

わなかったが、まったくないわけではない。当然ミスをすれば怒られるから本人にも非がある。と
んどの人はやさしい。

委員：私は、三島と川之江の紙おどりに参加して、川滝の盆おどりにも行った。あと花火大会も行った。
よさこいも見に行った。踊りは好きだ。

委員長：A L Tは、イベントに誘ってくれる、そういうシステムがあるのか。

委員：そういうシステムはない。A L Tたちも直接はっきり誘われないと行きにくいし、イベント自体知
らないことも多い。

委員：やはり外国人は誘われないと行きにくい。なかなか一人では参加しにくい。日本人の方はチラシを
見ていけると思うが、外国人は1人では行きにくい。

事務局：盆おどりは三島公民館以外、各公民館で行っていると思う。ただ、Tシャツでは参加できなくて、
事前に申し込みをしてゆかたで踊るシステムだと思う。

委員長：そこは招待してあげると全然違うと思う。

委員：夏のフェスティバルにはA L Tは団体ではあまり行かない。盆おどりなど学校関係者と一諸に行く
ようなので招待がないと行きにくい。

委員長：日本の盆おどりに行って踊ると楽しいのか、見て面白いのか。

委員：自分も踊る。見るだけでは物足りない。3回くらい練習日がある。

委員：中国には日本の盆おどりのようなものはあるのか。

委員：中国に日本の盆おどりのようなものはない。出来なくても前の人のまねをして踊る。踊れるとうれ
しい。

事務局：地域によってオリジナルがある。炭坑節などはわかりやすい。

委員：アメリカには、日本のような盆おどりはないので外国人に参加してほしい。

委員長：これから9, 10, 11月にも地域のイベントがあるのか。たとえばハロウィンなど

委員：子ども向けだが、ハロウィンは四国中央市国際交流協会が大きくやっている。

委員長：アメリカでは、ハロウィンはみんな行っているのか。

委員：みんなやっている。子どもはトリックオウトリート、大人は夜、パーティーをする。

委員長：ハロウィンの次は、クリスマスなのか。

委員：サンクスギビングがある。新年まで結構忙しい。

委員長：松山市でも3年前ぐらいからハロウィンをしている。飲み屋が仮装してくると安くしたりして
街が変わった。グッズもたくさん売っている。こちらのショップも仕掛けたらよい。

事務局：現実に、四国中央市の紙販売の会社もハロウィンのティッシュなどの製品を販売していて、毎年販
売数が伸びていると聞いた。四国中央市国際交流協会主催のハロウィンの時も買って、みなさんに
配ったりしている。

委員長：グローバル化の中の新たなカルチャーだと思う。ビジネスに結びついていいのでは。

事務局：ハロウィンは、クリスマスについてコスチューム、食べ物、音楽など商品分野が広く、業者は積極
的だと思う。

委員：ポスターをたくさん作って誘おうと思っている。

事務局：毎年約250人参加者がいる。ローカルだと、子どもたちが夜仮装して出かける機会がなく、1年
前からすごく楽しみにしている。

委員長：昨日、県民文化会館で安室奈美恵のコンサートがあった。会場周辺で安室奈美恵になりきっている
人がいっぱいいた。今、日本はコスプレがカルチャーである。そのハロウィンパーティーの内容は

何をしているのか。

委員：いろいろなゲーム、マジックショー、コスチュームコンテストなど

委員：ハロウィンの時にするゲームがあるのでそういうのをしている。子どもたちにとってはじめてするゲームがある。

委員長：それは、国際理解につながると思う。2月は春節がある。

委員：春節は四国中央市国際交流協会が大きくしている。日本の方にたくさんきてほしい。

事務局：毎年120人ぐらいの参加者がある。

委員長：秋まつりの招待はまだ間に合うのでは。

委員：組合関係の技能実習生は、川之江八幡神社の1台のおみこしを担がせてもらう。

委員：前のALTやCIRは太鼓を担いだことがある。

委員長：そのお世話する人がいる時といない時とで差がでているのをもう少し安定させようという施策の話である。

委員：太鼓の場合は、保険などもかけており、飛び入りは難しい。

委員：一つのチームで関わるほうが関わりやすいのでは。

事務局：秋祭りの太鼓は、地域で運行の仕方、規律が違うのでなかなか難しいかもしれない。

それをまとめる人が必要。秋まつりは、お酒が入り、けがもありトラブルも多い。その方に対して責任がある方がつかないと難しいと思う。

委員：たとえば、10月に体育館で行っているスポーツイベントに技能実習生が個人で参加できないのか。

事務局：参加できると思うが、問い合わせてみる。

委員：個人で電話をしないといけない。

事務局：組合でまとめてもらうと参加しやすいかも知れない。

委員長：体育協会さんが視野を広げていただいてもっと外国の人に参加してもらおうと呼びかけてくれればよいのでは。松山では留学生がスポーツ大会をしていて日本人も参加し盛り上がった。体格もゲームの仕方も違い面白い。

委員：去年、休みの日に技能実習生が川之江体育館でバスケットボールを行った。

事務局：スポーツはあまり言葉がいらぬから交流しやすいかもしれない。

委員：毎年2月に団体主体の会員のボウリング大会をしたとき、企業何社かが中国の技能実習生を連れてきていた。120人ぐらいのうち10人ぐらい。初めての方がほとんどだが楽しんでもらっていた。社内でコミュニケーションをとっていただくために利用してもらっている。

委員長：ボウリングは、中国の上海、北京にあるのか。

委員：今はボウリングがあるが、普及はしていない。

委員：私は土居に住んでいるが、3年ほど前2、3年ほど公民館運営委員をした時があった。地域の企業に中国の技能実習生がいる。公民館の決算で中国の技能実習生の盆おどりのためのゆかたのクリーニング代が計上されていた。土居は商工会が中心となって行っている。おどりはいつ入ってもいいし、出てもよい。各地域はゆかたを揃えている。その企業には声がかかっていると思う。また、技能実習生を招いて中国料理を楽しむことも公民館事業で年1回やっていた。カラオケ大会も行っていた。

委員長：公民館と企業が協力したのでしょうか。

委員：ビジョンの素案の中で、6ページと13ページのところだが、「目標4の重点施策 民間国際交流団体等のネットワーク化および推進母体の強化や自立」で推進母体というのは四国中央市国際交流協

会のことで、四国中央市国際交流協会の理事会で見せたところ現実に補助金をもらっていて、自立というのは時期尚早でないかという意見、行政と協力していかないとやっていけないし、行政とやっていくことが重要だ、充実できていくのではないかという意見であったので「自立」のところだけ削除してほしい。四国中央市国際交流協会は20年活動している。活動内容として語学などしているが最も大きいのは、教育委員会と協力しながらしている人材育成である。各中学校3名総勢300人近くを毎年ニュージーランドへホームステイに連れていっているし、また受け入れている。これは市のバックアップを受けてしている。市の中に国際交流協会があることで、父兄、学校から安全面に対し信頼を得ている。これを民間でやるとなると大変なことで、そういう面でも行政と協力してしばらくやっていくのがいいのではないかという理事会の意見であった。

委員長：推進体制のことで意見がでたのでとりまとめをお願いしたい。

委員：17ページの5行目だが、「ALTの活用が求められています。」とあるが、前はALT3名だった。現在6名7中学と増えてきているが、1人が三島西と南中、そこから週に2日ぐらい3つぐらいの小学校に行っている。クラスが多いとなかなかALTと接触することがないこともある。各中学校に1名はいてほしいので「活用と充実」という言葉を入れてほしい。

委員長：充実というのは量的拡大なことか。人材活用という表現はあまり好きではないが・・・

委員：量的拡大のこと。

委員長：ALTについて基本は学校の英語の先生、国際理解なので、あまり行政に手伝いできないのでは。

委員：ALTの雇用費用は市が支出しているので、所属は教育委員会であっても可能ではないか。

委員：小学校の外国語活動も増えてきている。

委員：ジェットプログラムの問題は、ALT達を100%活用するのは難しい。そこまで管理できる人はいない。それができれば7人目のALTはいらない。コミュニケーションの問題もある。

委員：私は、昔名古屋でALTのような仕事をしていて、このあたりはない。そういうのがあればコミュニケーションがうまくいくのではと思う。ALTができないことを日本人の英語できる先生が補っている。そうすれば先生とのコミュニケーションがうまくいきALTの負担も少なくなるのではないか。名古屋は10年前からそういうことをしている。

委員：小学校も中学校もそうしているのか。

委員：そうだ。英会話ができる先生を派遣している。

事務局：教員免許をもっている方なのか。

委員：教員免許をもっている方もいたし、免許をもっていない人もいた。

事務局：地域の外国人を外国語活動に招待していることはあるかも知れないが、授業はしてないと思う。

委員：授業については、教員免許がないとなかなか難しいのではないのか。

委員：ALTから中間、期末テスト、人権の日の時などすることがないとよく聞かすが、そういう時に小学校へ行けないのか。

委員：今の管理のシステムでは難しいと思う。この日はこの学校と決まっている。

委員：ALTの方も活用してもらってなく自分でももったいないと思っている。

委員長：まとめると、学校教育の日本の英語教育も試行錯誤して行ってきた現状。その中で国際交流側からみたときにALTの有効活用やALTのやりがいなど、少し詰める必要があるのではということ。また、一般的には外国語教育の充実、発展を望むし、ALTの人員の問題も出てくるのではないかということですね。

委員長：ビジョンの文面に関わることが出てきている、他の委員のみなさんも施策の大きな柱などないか。

委員：松山などでは、近所から誘われて外国人もみこしのチームにはいる。責任者の問題もあり、なかなか難しいと思うが、どうにか四国中央市でも外国人と住んでいる地域が繋がり、そういうことができればよいと思う。

委員長：大学でも留学生とイベントをしたりして、地域と繋げているのは10年前ぐらいから始まった。今はステージが上がって安定期に入っている。

事務局：地域イベントとの施策については、P10の在住外国人と地域住民の交流の場の設定という項目がある。

委員長：全体をみて何かありますか。P13のところの「推進母体の強化や自立」を「強化や充実」にかえるということですね。また、その下の「多様な主体性の団体」は「多様な団体」でいいのでは。それから、「善意通訳」は、ボランティアのことなら「通訳ボランティア」でいいのでは。それから、ホームステイの受け入れ家庭では1人だけのところもあるのではないかと。それから、「国際交流基金」は、行政のみではなく民間でもできるのではないかと。

事務局：P13の「推進母体の強化や自立」は「強化や充実」に変更します。「多様な主体性の団体」は「多様な団体」に変更します。「善意通訳」は「通訳ボランティア」に統一します。「ホームステイの受け入れ家庭」の表現を検討します。「国際交流基金の設立」の主体は、「関係団体」も追加します。

委員長：今、松山では、愛媛FCの選手でブラジルの選手がいる。愛媛FCなどを呼んでスポーツ交流することはないのか。高松や松山にいる人との交流も一つの方策ではないかと。

事務局：愛媛FCを呼ぶことはあまりない。

委員：P11とP21の防災関係のところ「ボランティア通訳」という表現は統一したほうがよい。

事務局：統一します。

委員長：ボランティア通訳、これは、災害時に先生方が通訳するということですか。

委員：災害の通訳は今まではなかった。訓練もしていない。

委員長：台風などでエリアメールがくるが、今は日本語しかない。多言語は今から。

委員：子育ての面で、病院や保育所、学校など言葉がわからない外国人のお母さんの支援をしてほしい。

事務局：行政の申請時などは必要ですね。

委員：松山なんかは人口が多いので外国人の妊婦もいる。ボランティア団体が登録をして通訳をしている。今までは日本語指導者が個別に対応してきたが、そういうのも必要になってくる。

事務局：行政でいうと乳幼児健診や保育の申し込みなどですね。

委員長：次回の日程は10月中、下旬で行う。

委員長：提言書だが、柱に則して優先順位をつけて取組のことなど私が私案を作成してみる。では、これで終了する。